

Activity report

久我山駅前広場を展望する展覧会を開催しました！

上図：久我山駅前地区将来イメージ図（案）、平成9年に示されたものの実現していない。

久我山駅は4万人/日を超える多くの乗降客数がありながらも駅前広場がありません。小さいお子さま連れや高齢者、障がいをお持ちの方、病院に行かれる方、そして、通勤通学やお買い物など利用者は様々ですが、どんなに大変であってもタクシー寄せも無いため、基本的には徒歩か自転車での移動となります。

駅前広場があったらいいのに、そう願ってました。

昨年度、杉並区では「富士見ヶ丘駅前周辺まちづくり」に着手し、駅の利用者の多くの方からご意見を伺い、どの様な将来像を描いていくか検討が進んでいます。令和4～6年には、この2つの駅が交差点となる東京都立高井戸公園の順次開園が予定され、今よりも一層、乗降客数が増える事が予測されています。

杉並区では平成8年「久我山駅前地区整備構想(案)策定調査」、翌年は「久我山駅前地区整備総合計画(指針)」を取りまとめ、「駅前公共施設のあり方」には、駅前の広場計画が、しっかりと含まれていました。

その中にある、駅前の広場計画を抜粋します。

(3) 駅前の広場計画

○北口広場整備

◆地下道の整備に伴い、現在の駅舎の再整備も必要となる。駅舎の整備に際しては、北口広場として必要な面積1,000～1,600㎡のうち、現在の駅舎となっている京王帝都所有地(面積約300㎡)を広場として整備する。

◆広場には、植栽、ベンチ、情報掲示板等を設置し、うるおいのある空間創出とともに、身近な生活拠点としての利便性を考慮した整備を行う。

○南口広場整備

◆南口は駅から神田川を挟んで人見街道までの用地を広場として整備し、面積は約2,000㎡を確保する。

◆人見街道沿いにバス・タクシー停車帯を設置し、駅前交通機能の向上をはかる。

◆都市計画緑地を駅前広場として活用することから、みどり豊かな、親水性のある空間整備を行う。

◆自由通路の開設に伴い、南口から人見街道への動線確保として神田川に橋を新設する。また、この橋は、南口前のたまり空間としての機能を持たせることから、余裕ある幅員(15m程度)あるいは久我山橋を南口まで拡幅することで対応する。

◆上記新橋を幅員15mとした場合、河川管理用通路の高側と橋部分で、16m×15m=240㎡を確保し、たまり空間としての滞留人口は、1.2人/㎡とすると、240㎡全体では200名の滞留空間が創出される。



図 3-8
北口広場および
南口広場イメージ



久我山駅前広場はいつか杉並区政において位置づけがされながらも、その後立ち消えとなっており、大変残念ながら、現在の杉並区政においては喫緊の課題として位置付けられていません。

これからは、少子高齢社会の本格的な時代を迎え、駅周辺の安全性や利便性がますます必要となって行きます。また、高度成長期に主に建てられた建物が老朽化し、建て替えが進んでいく為、いつか建て替えが進んでしまうと駅前広場の為の用地取得は大変難しくなり、駅前広場は実現していきません。

山本あけみは今のこの時期を捉え、久我山駅前広場の整備に向けて、もう一度、杉並区政において重要課題として位置付けて行ってもらいたい、強く提言を続け、その活動の一環として本展覧会を開催いたしました。ご覧いただいた皆様の貴重なご意見を、今後とも区政へ届けて行きます。

期間：令和2年8月28日(金)～30日(日) 場所：アクロス(京王井の頭線久我山駅改札前) ※この展覧会は終了しています。

高井戸地域にも子どもプレーパーク設置を！



写真：都立高井戸公園

杉並区では、子どもプレーパーク事業運営をNPO法人に委託し運営をしています。世田谷区羽根木公園がプレーパーク発祥の地ですが、杉並区にも積極的に取り組んで欲しいと考えています。都立高井戸公園の一部開園し、多くの子どもたちの元気な声が響いています。隣接して区立富士見丘小・中学校の改築計画が進んでいます。小学校校舎北側の傾斜地には大きな桜があり、この場所にプレーパークを常設して、子ども達が自分の責任で自由な発想でロープ遊具・泥遊び・木工作・水遊び・たき火など思いっきり遊べる場所にして欲しいと要望をしています。

区では、この場所に対して学童クラブを予定していますが、運用の面などの課題を解決しながら、実現を求めて行きます！

木曜茶話会のお知らせ



毎月第4木曜日に自由な意見交換の場として開催し、本年度で10年目となりました。今後ともご意見を頂ける環境づくりを継続して行って参ります。コロナ禍の影響で見合わせていましたが、以下の通りオンラインで開催いたします。皆様のご参加をお待ちしております。

68回
1/28 木
15～17
テーマ
「コロナ禍と杉並区政について」

69回
2/25 木
15～17
テーマ
「令和3年度予算について」

70回
3/25 木
15～17
テーマ
「都政と区政の関わりについて」

参加方法：開催日前日までに、yamamoto.akemi1965@gmail.com 宛てにご参加の旨メールをいただければ、折り返し参加方法をお知らせいたします。参加無料・要予約

山本あけみプロフィール

東京都生まれ。杉並区久我山在住。
インテリアコーディネーター/建築士/福祉住環境コーディネーター。
武蔵野女子大学/武蔵野美術大学(通信課程)卒業。
4人家族。20年間住宅の内装設計に携わる。
2011年初当選、2019年再選。都市環境委員会委員長、文教委員会委員長等歴任。立憲民主党杉並区議団副幹事長。

コロナ関連など、区政に関する情報を「山本あけみメールニュース」としてお届けしています。ご登録ご希望の方は、その旨メールをください。

お問い合わせ・連絡先

メールまたはファックスをお願いします。頂いたお問い合わせには必ずお返事を差し上げますが、場合によってはお時間をいただく事があります。【連絡先・杉並区役所】杉並区阿佐ヶ谷 1-15-1(代 03-3312-2111)

メールアドレス yamamoto.akemi1965@gmail.com
ファックス 03-6231-5839

※政務活動費は基準に則って使用し、領収証を添付の上報告をしています。公開していますので、区議会事務局にお問い合わせください。(03-3312-2111(代表))

※これまで発行の区政報告をご希望の方は上記までご連絡をください。いただいた個人情報(山本あけみの活動以外)には使用いたしません。



発行責任者
山本あけみ

議員活動10年のあゆみ特別号

杉並区議会議員 / 立憲民主党杉並区議団副幹事長

山本あけみ市民政治レポート

- 【巻頭 OPINION / 区議 10年のあゆみ / SDGs 推進】 1
- 【Topic / 基本構想審議会委員 / コロナ禍の学習環境 / 中央図書館】 1
- 【第4 定例会 一般質問報告 / SDGs 推進で区政を前に！】 2,3
- 【Activity report / 久我山駅前広場を展望する展覧会開催報告ほか】 4
- 【木曜茶話会のお知らせ】 4

「緑ゆたかな環境をこどもたちへ」

<http://yamamotoakemi.com/>



2021
新春
vol.29

巻頭 OPINION

新年を迎えてもなお、新型コロナウイルス感染症の影響は区民生活に多大な影響を与えています。医療関係者をはじめとして、私たちの生活を支えてくださっている方々のご尽力に深く感謝申し上げますとともに、一日も早い終息をお祈り申し上げます。

本年度は目指すべき将来像である新たな基本構想の議論が進んでいますが、山本あけみはSDGsのゴールを土台に入れたものとして行くよう提言をしています。

SDGs(持続可能な開発目標)は、私たちの身近な課題に関連し、このゴールを目指すには、基礎自治体の取組みと関連付け、市民と共に進めるといった地に足の着いた方策が重要です。

これまで、区民のお声を大切に、教育・福祉・都市計画分野など要望や提言を重ね、昨年第4定例会一般質問「SDGsと区政について」の中で、それらをSDGsのゴールに沿って整理し直して進捗を問い、新たなステージに向け提言をしました。(詳細は中面)

区議10年のあゆみとして、皆様にご報告申し上げます。



山本あけみは持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています

SDGsとは、国際連合(国連)発足から70年の2015年に加盟国が決めた「未来のあるべき姿」です。異常気象がもたらす自然災害や貧困格差などの影響は全世界に及び、このままでは地球規模での豊かな環境、社会を維持できないといった危機感から生まれ、達成期限は2030年までと定められています。持続可能でより良い世界を目指す為の国際目標は17のゴールから構成され、地球上の「誰一人取り残さない」ことを誓っています。先進国自身が取り組むユニバーサル(普遍的)なものであり、政府のみならず、市民、企業などあらゆる人、組織の行動が求められて来たり、市民に一番近い基礎自治体の積極的な取組みの加速が求められます。

Topic



杉並区の新型コロナウイルス感染症対策

杉並区では、区民生活を支えるため区内4基幹病院医療体制や移動バスによるPCR検査の充実、多岐にわたる福祉や教育分野等において、矢継ぎ早に対策を打ち続けています。特に、ホームページ上では分かりやすく現状をお伝えするために情報公開に努め、週ごとに陽性者数、検査件数、陽性率を公開しています。立憲民主党杉並区議団では、これまで3度にわたる区に要望書を提出し、

- PCR検査と相談体制、及び医療機関支援体制の充実
- 区内感染者の発生状況や検査数など出来る限りの情報公開
- 働く人や生活弱者を守る、命と暮らしを守るための経済対策

などを求め実現してきました。

いまだ終息が見送せない中、区民の安心安全を守るための要請活動を今後とも続けて参ります！

◆新基本構想審議会に委員として参加！

本年度は、令和4年度からの10年間の指標となる新基本構想の審議が進む。あらゆる計画の最上位に位置し大変重要。審議会では、公募区民、区内各種団体代表、学識経験者、区議、合計42名により区の将来像の議論をしており、立憲民主党杉並区議団を代表し山本あけみも委員として参加。



◆未来志向の中央図書館改修完成！

JR荻窪駅南東にある中央図書館改修に2016年から約1年がかりで、当初予定していた空調やエレベーターなどの、営繕工事に留まらず、今後約30年使い続ける図書館を、新たに作り直す姿勢を持った取組みを提言し続け、その後、区では大きく方向を転換して、大規模改修に着手。区民意見を取り入れ完成した中央図書館には、昨年9/5のオープン後に多くの区民が訪れており、ゆったりと本に囲まれ充実した時間を過ごせるよう願う。

◆コロナ禍の学習環境充実に向けて大きく前進！



昨年3月、新型コロナ拡大の影響で区立小中学校が突然休校となり学習の遅れや先生・児童生徒同士のコミュニケーションの不足など、多くの保護者から心配や不安の声が寄せられたため、緊急アンケート実施。保護者187名からご回答頂き、結果を取りまとめ区へお声を届けた。コロナ禍の中であっても学習やコミュニケーションを継続出来るよう、教育委員会を中心としたオンライン学習の環境整備など対応を求め、第2定例会一般質問では国が進めるGIGAスクール構想のタブレット配布を強く提言。その後、区では導入を決め、今年度中のタブレットの全児童生徒への配布を目指す。政府はデジタル活用能力を備えた小中学校の教員育成を目標に掲げるが、世界標準に早く追いつき、未来を担うひとり一人の子も達が、充実した教育を受けられるよう提言を続ける。



SDGsのゴール1から6は、人間が人間らしく生きていく為の「社会」について

1 貧乏をなくそう
あらゆる場所のあらゆる形態の貧乏を終わらせる！

要望 特にしわ寄せがくる子どもを、要望を待たず行政が手助けをする「プッシュ型支援」を求める！

2 飢餓をゼロに
飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する！

要望 コロナ禍でひとり親世帯や非正規労働者等、生活に困難を抱える方に引き続き支援を。

3 健康と福祉を
すべての人に健康と福祉を
あらゆる年齢の全ての人々の健康的な生活を確保し、福祉を推進する！

Q1 [H24] 発達障がい児(者)の総合的支援を！ **実現**

A1 支援入り口の発達相談と未就学期・学齢期支援に加え、青年期発達支援プログラムを今年度より本格実施し所管を超え連携。

Q2 [H24] 小規模多機能型居宅介護施設(高齢者)増設と備在是正を！ **実現**

A2 補助金加算などの工夫で4⇒11か所に増加。

要望 認知症の「共生」と「予防」は車の両輪。区民自らの予防支援を！

Q3 [H25] 災害医療偏在と空白地域の解消を！ **実現**

A3 H27 には緊急医療救護所11か所に増設し解消。

Q4 [H29] 特別養護老人ホームの需要把握で実態に即した整備を！ **実現**

A4 利用意向アンケート実施。結果を踏まえ特養定員や居宅サービス量増を見込み事業計画に反映。

要望 精神障がいにも対応した地域包括ケアシステムの構築を！

4 質の高い教育をみんなに
質の高い教育をみんなに
全ての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進！

家庭の経済状況に左右されず、教育格差を生まない取組みが必要。杉並で育つ全ての子ども達に、充実した教育の場を提供できるよう、一般質問で質疑を重ねた項目の進捗を問う！

Q5 [H24] 教員の海外視察・派遣研修で公教育の質向上と発展を！ **実現**

A5 H26 から都の海外派遣研修実施で毎年3名程度参加。中学生海外留学事業に毎年3名程度引率で参加。区内教員全体の質向上に努める。

は一般質問の実施年

Q6 [H24] 未確立の発達障がいを持つ乳幼児の支援体制充実を！ **実現**

A6 就学前教育センターで全ての幼児の早期の円滑な就学支援体制構築の支援。

Q7 杉並の子ども達や社会人教育でSDGs教育取組みの加速を。

A7 国も掲げるSDGs17の目標をユネスコのESD教育に取り入れ更なる推進を目指す。

要望 近年増加傾向にある不登校や外国人就労者のお子さんなど含め手厚い対応を！

5 ジェンダー平等を実現しよう
ジェンダー平等を達成し、全ての女性及び女性の能力強化を！

Q8 日本は、今はまだ望むべき社会の実現は遠い。更なる充実を！

A8 区民や関係団体等と連携・協働しながら行動計画目標達成に取り組む。新基本構想策定等で更なる充実。

6 安全な水とトイレを世界中に
安全な水とトイレを世界中に
全ての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する！

要望 災害時の備えで重要な項目が安全な水とトイレの確保。より一層の充実を求める！

SDGsのゴール7から12は、雇用・格差・経済成長・生活インフラなど、最低限の暮らしの保証から、より良い暮らしについて

7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
全ての人の、安堵かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する！

脱原発社会を目指し、再生可能エネルギーの普及をめざすといったエネルギーの大転換を実現するには、国による新たなエネルギー計画に目標を掲げ積極的に地球温暖化対策を行い、産業構造や経済社会の変革を大きな成長につなげる取組みの加速が求められる。

要望 以前提言した「さいたま市環境配慮型公共施設指針」を参考に公共施設で出来る限りのエネルギー消費抑制を！

8 働きがいも 経済成長も
包摂的かつ持続可能な経済成長及び全ての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用の推進！

在宅ワークが進み、自分らしく、主体的に働き、暮らすことができる社会を実現するための「協働労働法」成立など労働環境多様化。社会情勢の変化を捉え支援を！

Q9 就労支援センター開設後に経済や今回のコロナ禍など、社会情勢が目まぐるしく変化。より一層、区民に身近な支援として定着を。

A9 若者や精神的・身体的な不安要因を抱える方々を重点としつつ、幅広い年齢層の就労相談や就労支援を進める。いわゆる就職氷河期世代や女性、新型コロナウイルスによる失業や雇止めなど社会経済情勢変化を的確に捉え就労を実現。

9 産業と技術革新の基盤をつくろう
強靱なインフラを構築、包摂的かつ持続可能な産業化の推進と技術革新の拡大を図る！

Q10 [H27] 萩窪の中央図書館周辺に「歴史と平和の歩道」整備で観光産業として基盤整備を！ **実現**

A10 「萩窪周辺まちづくり」で昨年「萩窪の歴史・まち・人を想う15の提案」を策定し、周辺の各施設間での情報共有や各施設合同イベントなど開催。

要望 省エネ・バリアフリー耐震などリフォーム助成制度創設で質の高いリフォーム工事事業者の新たな産業育成を。

【第4定例議会一般質問報告】

「SDGsと区政について」

区民と共に歩む

杉並区発のSDGsのゴールを目指し「誰一人取り残さない」社会の実現を！
区と区民が同じ目標を共有し、ともに課題解決をして行くために！



10 人や国の不平等をなくそう
国内および国家間の不平等を是正する！

要望 ハード・ソフト共に区立施設はどの施設も分け隔てなく、バリアフリーやユニバーサルデザインを目指せ！

11 住み続けられるまちづくりを
都市と人間の居住性を包摂的、安全、強靱、持続可能にする

まちの再生の時期に良質な住宅都市を目指し街並み誘導策を図り、グリーンインフラの取組みなどを積極的にを行いながら、官民連携のまちづくりを！
これまでの提言への進捗を問う。

Q11 [H25] 震災救援所訓練の区内統一の目標設定で地域防災力向上を！ **実現**

A11 震災救援所の取組の格差は正や底上げを目的に「震災救援所運営標準マニュアル」を作成し、各震災救援所でこれを参考に個別のマニュアルを作成し訓練。毎年度、重点訓練目標を示し区内全体の地域防災力のレベル向上につなげる。

Q12 [H25] 地域に防災危機管理者や防災士など専門家配置を！ **実現**

A12 H30年度より、すぎなみ地域大学で「地域防災コーディネーター養成講座」実施。修了生の震災救援所運営連絡会への参画に向け調整し、全区の防災の専門知識を持つ人材の配置を進める。

Q13 [H25] 防災、減災、復興で重要な事前復興で早期復興を目指せ！

A13 被害の最小化につなげる事前復興は欠かせない視点。H30「杉並区震災復興マニュアル」改定で震災に備えて事前に準備すべき事項や震災後の具体的行動を整理しHP等を通じ区民周知。

Q14 [H26] 地域事情をくみながら、無電柱化の推進を求める！ **実現**

A14 「防災機能強化」「安全で快適な歩行空間確保」「良好な都市景観創出」の観点から推進すべき。今後策定の基本構想においても実現に向け計画的に進める。

Q15 [H29] 教育の場はもとより、短期・長期にわたる震災救援所としての学校建築を目指せ！ **実現**

A15 校舎配置の段階から地域防災拠点としての機能を十分発揮できるよう設計。竣工後は着実な運用に向け震災救援所運営マニュアル等に掲載し訓練実施。

Q16 [H30] 国の「エネルギー基本計画」で「2020年までに新築公共建築物等で、2030年までに新築建築物の平均でZEB(ゼロ・エネルギー・ビル)実現を目指す」の動きをどう捉え、当区の公共建築物の政策に反映させていく必要があると考えるか。

A16 国で実証事業推進など普及に努めている事は承知するも、建設費増加等の課題もあり、現段階では自治体での導入例が少ないのが実情。今後も引き続き国や他自治体での動向等も踏まえ研究。

要望 老朽化した公共施設改築改修は区財政運営の最重要課題。コロナ禍で財政運営はより一層厳しくなる。管理から運営への発想転換する。公共施設マネジメントの全庁的な取組みを！

要望 設計者選定方法で、設計料が安いという理由で選ぶ「入札」では無く、質の評価を原則とする「プロポーザル選定方式」の取組が重要。中央図書館改修はプロポーザル選定方式が行われ、その成果を次期区立施設再編整備計画に活かす為、課題の洗い出しや共有など、建物完成後の庁舎内外の振り返りを求める！

Q17 [H23] 一步先行く、環境配慮のため良好な住宅ストック形成を目指せ！

A17 国は長期優良住宅や低炭素建築物の認定制度、建築物省エネ法による規制などにより、建築部門の地球環境への負荷軽減対策を行う。区としてはこれらの国の政策が、良好な住宅ストック形成につながると考え法制度の着実な執行に努める。

Q18 [H24] 都市計画画 伊藤滋先生の「都市計画的な低炭素化の構想として建物や設備・機器の省エネの強化・徹底が重要だが、それだけでは不十分で、都市づくりに環境・エネルギー施策を取り込み、都市計画を舞台とした低炭素まちづくりの全国展開を図ることが有効」というお考えをご紹介したが、当区の認識と区政に活かされている具体的な施策はあるか。

A18 杉並区まちづくり基本方針で「低炭素まちづくりの推進による環境負荷の低減」を掲げ、総合的に事業を進め、環境負荷軽減を図るとして、具体的な施策は下高井戸おおぞら公園開園など、公共施設のグリーンインフラ活用や、低炭素化推進機器等導入助成を実施。

Q19 区民と行政、そして外部有識者などとの間のパートナーシップ強化はとても重要な視点。幅広い区民意見の吸い上げに鋭意取り組んできたが、SDGsの考え方も見据えれば、今後さらにその歩みを一歩進めて取り組んでいただきたいと考えるが区の見解は。

A19 基本構想審議会部会の議論で、NPO等の民間団体から民間企業までを含めた多様な主体とのパートナーシップや協働のあり方に関し様々なご意見をいただき、官民連携し地域の課題解決にあたる重要性を改めて感じる。無作為抽出の手法による意見聴取や、オープンハウスの開催、すぎなミーティングなどを通じ幅広い区民から意見をお聞きする機会を設置。社会環境が大きく変化し、行政サービスの一層の質向上が求められる、多様な主体から幅広くご意見をいただき、区政を前進させていく事が重要。こうした認識の下、今後基本構想審議会の議論等を踏まえ多様な主体とのパートナーシップや協働のあり方について検討。

12 つくる責任 つかう責任
持続可能な消費と生産のパターンを確保する！

要望 杉並区では食品ロス削減やゴミの分別などに取組み成果を上げているが、今後はごみの発生抑制のため、区民・事業者・杉並区が、それぞれどういった方策を講ずべきかを示すよう取組みを求める。

SDGsのゴール13から15は「環境、気候変動問題・海と陸の資源に対し、人間だけでなく動植物が暮らし自然の持続可能性について

13 気候変動に具体的な対策を
気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる！

大型台風やゲリラ豪雨、酷暑など気候変動による脅威は年を追うごとに増している。気候変動への具体策を喫緊の課題として杉並のゴールは何かの熟識が必要。住宅施策とまちづくりにおいても具体策があると考え提言。

Q17 [H23] 一步先行く、環境配慮のため良好な住宅ストック形成を目指せ！

A17 国は長期優良住宅や低炭素建築物の認定制度、建築物省エネ法による規制などにより、建築部門の地球環境への負荷軽減対策を行う。区としてはこれらの国の政策が、良好な住宅ストック形成につながると考え法制度の着実な執行に努める。

Q18 [H24] 都市計画画 伊藤滋先生の「都市計画的な低炭素化の構想として建物や設備・機器の省エネの強化・徹底が重要だが、それだけでは不十分で、都市づくりに環境・エネルギー施策を取り込み、都市計画を舞台とした低炭素まちづくりの全国展開を図ることが有効」というお考えをご紹介したが、当区の認識と区政に活かされている具体的な施策はあるか。

A18 杉並区まちづくり基本方針で「低炭素まちづくりの推進による環境負荷の低減」を掲げ、総合的に事業を進め、環境負荷軽減を図るとして、具体的な施策は下高井戸おおぞら公園開園など、公共施設のグリーンインフラ活用や、低炭素化推進機器等導入助成を実施。

Q19 区民と行政、そして外部有識者などとの間のパートナーシップ強化はとても重要な視点。幅広い区民意見の吸い上げに鋭意取り組んできたが、SDGsの考え方も見据えれば、今後さらにその歩みを一歩進めて取り組んでいただきたいと考えるが区の見解は。

A19 基本構想審議会部会の議論で、NPO等の民間団体から民間企業までを含めた多様な主体とのパートナーシップや協働のあり方に関し様々なご意見をいただき、官民連携し地域の課題解決にあたる重要性を改めて感じる。無作為抽出の手法による意見聴取や、オープンハウスの開催、すぎなミーティングなどを通じ幅広い区民から意見をお聞きする機会を設置。社会環境が大きく変化し、行政サービスの一層の質向上が求められる、多様な主体から幅広くご意見をいただき、区政を前進させていく事が重要。こうした認識の下、今後基本構想審議会の議論等を踏まえ多様な主体とのパートナーシップや協働のあり方について検討。

Q20 SDGsと区政に関連して質疑をしてみたが、これらを通じて明らかになるように、既に区政においてSDGsのゴールに向けての取組みは進んでいると考えるが見解は。

A20 区民福祉の向上という観点からの様々な取組みは、それ自身がSDGsの考え方や方向性と軌を一にしている。計画事業をはじめ区の取組みは着実に前進し、そうした意味で、SDGsに示されたそれぞれの目標に向けた取組みも進展しているものと受け止めている。

要望 区職員一人ひとりがSDGs推進の担い手として、主体的に縦割りの組織を超えたコミュニケーション醸成や情報の共有化による相乗効果を図るよう求める。

要望 「協働」に関し一般質問で、新基本構想に向け力強く推進をして欲しいとの立場から詳細にわたり質疑。現在の地域課の枠を超え分野横断的に成果を出せるよう積極的な取組みを求める。

要望 「住民協議会設置」に際し当該議団で試行を重ねながら設置を提言。行政の課題解決は行政のみで行うのではなく、自分の事として捉え区民を増やし、能動的に解決策を探る機会をつくる事が重要。偏りのない多様な意見を引き出す工夫を求める。

SDGsのゴール16から17は、目標達成のための、枠組みについて

16 平和と公正をすべての人に
持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を推進し、全ての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で責任のある包摂的な制度を構築！

要望 核兵器禁止条約発効の要件が51の国と地域の批准により達成された。日本は唯一の戦争被爆国として核兵器廃絶を訴える一方、「核軍縮は核保有国とともに段階的に進めるべきだ」という立場を取っており大変審がゆい。杉並区平和都市宣言を掲げる当区から、日本政府の禁止条約への参加を求めて行くよう求める。

要望 「子どもに対する虐待の撲滅」もゴールのひとつ。根こそぎ無くすことを意味する「撲滅」を目指し、児童相談所整備などに関しても議論が進むよう求める。

17 パートナーシップで目標を達成しよう
持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する！

SDGs推進では、実現のための枠組みづくりは最も重要。具体策である「協働」や「住民協議会設置」などを推進。

Q19 区民と行政、そして外部有識者などとの間のパートナーシップ強化はとても重要な視点。幅広い区民意見の吸い上げに鋭意取り組んできたが、SDGsの考え方も見据えれば、今後さらにその歩みを一歩進めて取り組んでいただきたいと考えるが区の見解は。

A19 基本構想審議会部会の議論で、NPO等の民間団体から民間企業までを含めた多様な主体とのパートナーシップや協働のあり方に関し様々なご意見をいただき、官民連携し地域の課題解決にあたる重要性を改めて感じる。無作為抽出の手法による意見聴取や、オープンハウスの開催、すぎなミーティングなどを通じ幅広い区民から意見をお聞きする機会を設置。社会環境が大きく変化し、行政サービスの一層の質向上が求められる、多様な主体から幅広くご意見をいただき、区政を前進させていく事が重要。こうした認識の下、今後基本構想審議会の議論等を踏まえ多様な主体とのパートナーシップや協働のあり方について検討。

Q20 SDGsと区政に関連して質疑をしてみたが、これらを通じて明らかになるように、既に区政においてSDGsのゴールに向けての取組みは進んでいると考えるが見解は。

A20 区民福祉の向上という観点からの様々な取組みは、それ自身がSDGsの考え方や方向性と軌を一にしている。計画事業をはじめ区の取組みは着実に前進し、そうした意味で、SDGsに示されたそれぞれの目標に向けた取組みも進展しているものと受け止めている。

要望 区職員一人ひとりがSDGs推進の担い手として、主体的に縦割りの組織を超えたコミュニケーション醸成や情報の共有化による相乗効果を図るよう求める。

要望 「協働」に関し一般質問で、新基本構想に向け力強く推進をして欲しいとの立場から詳細にわたり質疑。現在の地域課の枠を超え分野横断的に成果を出せるよう積極的な取組みを求める。

要望 「住民協議会設置」に際し当該議団で試行を重ねながら設置を提言。行政の課題解決は行政のみで行うのではなく、自分の事として捉え区民を増やし、能動的に解決策を探る機会をつくる事が重要。偏りのない多様な意見を引き出す工夫を求める。